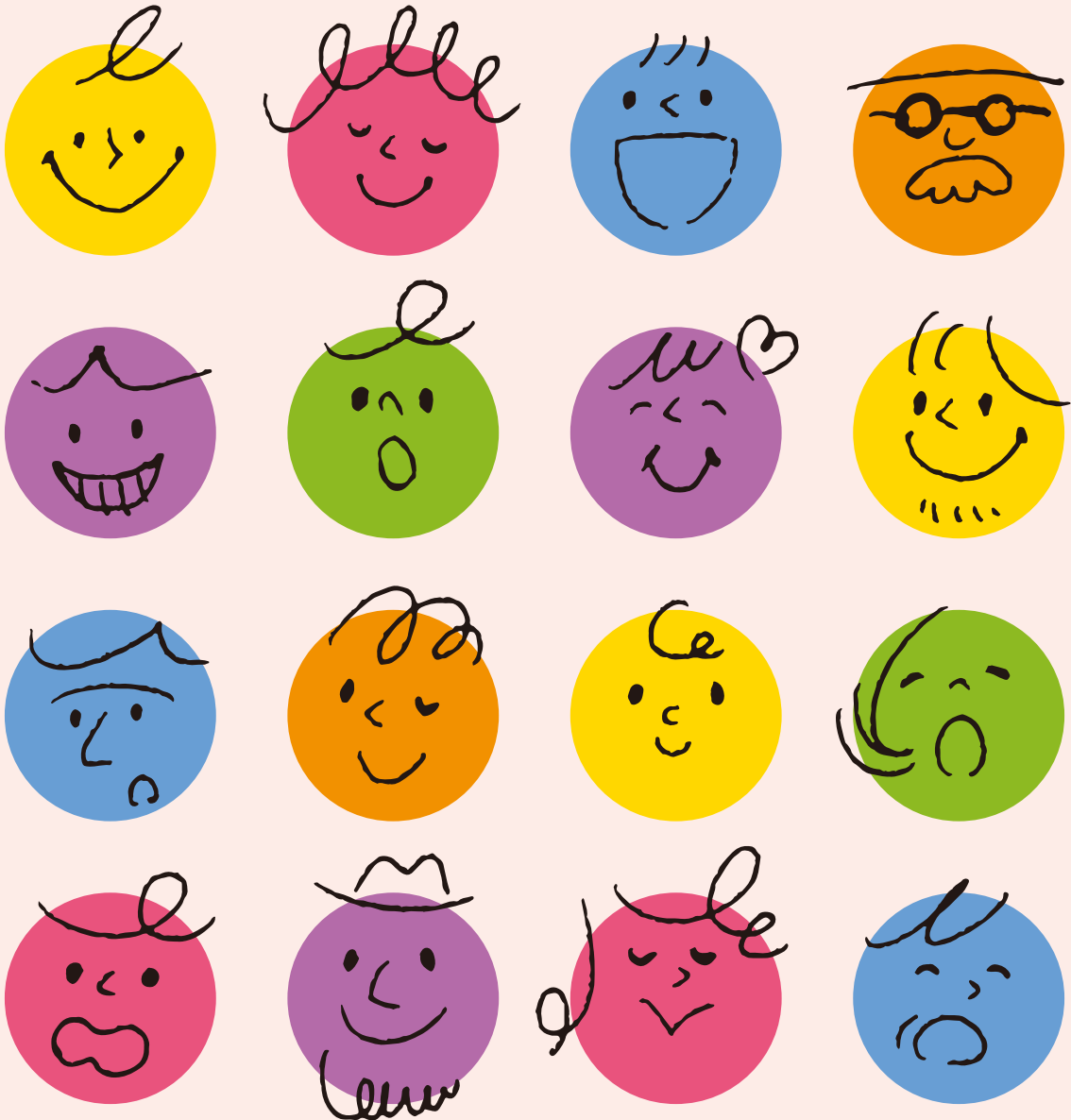


大好きな家族のこと、みんなに教えたい!

第14回

# 家族のきずな

2023年受賞作品集



大きく育てていこう、かけがえのない“家族のきずな”

主催／広島県モラロジー協議会

後援／広島市教育委員会・広島市PTA協議会・広島市退職校長会・中国新聞社・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

発行／広島県モラロジー協議会 〒733-0002 広島市西区楠木町 1-12-7-202 TEL/FAX : 082-291-0025 E-mail : kkihiroshima1034@gmail.com

# 家族のきずな

2023年受賞作品集

## もくじ

2	あいさつ
3	講評
4	選考・審査員
5	優秀賞作品
18	優良賞作品
38	参加学校名
39	モラロジーとは
40	企業協賛社・個人協賛者

- ◆応募時に掲載許可を得た作品のみ掲載しています。
- ◆受賞作品は原文を尊重し、なるべく訂正を加えず掲載しています。



## 主催者あいさつ



広島県モラロジー協議会は、私たちが生活する地域や社会が、より暮らしやすく、笑顔あふれる街になるように、人間性、道徳性を育てるさまざまな教育活動に取り組んでいます。

その活動のひとつである「家族のきずなエッセイ募集」事業は、今年で第14回目を迎え広島市内の小学校72校から4,884篇の作品が寄せられました。これは、ひとえにご応募くださいました児童や保護者の皆様、また、担任の先生をはじめ学校や広島市教育委員会の関係者の皆様、さらに、選考に携わっていただいた選考委員の皆様のお力添えの賜物と深謝申し上げます。

平成30年度には小学校で、翌31年度からは中学校で「特別の教科 道徳」が実施され、本格的に道徳教育がスタートしました。この「エッセイ募集」に応募する児童は作品づくりに取り組む過程で、改めて両親や兄弟姉妹、祖父母、曾祖父母のみならず、祖先とのきずなの大切さや命の尊さ、生きることの素晴らしさなど、さまざまな気づきを得ることでしょう。このことが児童の心の成長だけでなく、学校における道徳教育とよりよい家庭づくりのための一助になるものと確信しております。また、先生やご家族の皆様にとって、児童の気持ちを理解したり共有したりするよい機会になると考え、今後も本事業の継続のために尽力して参ります。

末筆ではございますが、後援をいただきました広島市教育委員会、広島市PTA協議会、広島市退職校長会、株式会社中国新聞社、株式会社中国放送、広島テレビ放送株式会社、株式会社広島ホームテレビ、株式会社テレビ新広島、広島エフエム放送株式会社をはじめ、運営にご協力いただきました企業ならびに個人の皆様に厚く御礼申し上げます。

広島県モラロジー協議会 会長 中川 齋



## 「家族のきずなエッセイ」の選考を終えて

講評を書くにあたって何度もエッセイを読み返します。何かしら新しい発見があるからです。今回もワクワクしながらエッセイの文面に目を走らせました。あることに気づかされました。優秀賞の作品の中から、いくつか例を引くことにしましょう。

下市創くんの「木の上のじいちゃん」という作品は、生前の祖父から木登りを教わったというお話でした。その中で、作者は「じいちゃんは『自分で取った実はおいしかろう』と、さくらんぼやビワの木にも登らせてくれた。…ぼくに木登りの楽しさを教えてくれたじいちゃんは去年の秋とつ然、死んでしまった」と記しています。祖父は「登らせた」「教えた」人ではなく、「登らせてくれた」「教えてくれた」人なのです。こうした書き方は、他の作品にも共通していました。

森本千彩さんの「お母さんのまほうの手」という作品では、母と手をつないで保育所に通った思い出が描かれていました。作者は次のように書いています。「『寒い。』と言うと、お母さんはわたしの冷たい手をぎゅっとにぎって、『寒いね。』と言ってくれる。お母さんと手をにぎると体も心も少しあたたかくなったような気がする。…夕方になりお母さんがむかえに来てくれた。帰りもいっしょに手をつないで帰れる」。ここでも、母が「言う」「来た」ではなく、「言うてくれる」「来てくれた」と記されています。

同じような文脈で「もらう」という表現を使った作品もありました。山崎壮真くんの「ぼくのヒーローおじいちゃん」では、作者は、亡くなった祖父について「動物園や水族館、旅行にも連れて行ってもらいました。大きな声、優しい笑顔、つないでくれた温かい手のぬくもり、たくさん甘えさせてもらったこと、全てが大切な思い出です」と書いています。また、できることを見つけることの大切さを知的障害のある兄から学んだ、という三野瑞季くんの作品の題名は、「兄から教えてもらったこと」でした。

「教えた」「来た」という表現は事実を示していますが、「教えてくれた」「来てくれた」という語り方には事実以上のものが込められています。「連れて行ってもらった」「教えてもらった」という語り方も同じです。

では、作者たちは「してくれる」「してもらう」という言葉に、事実以上の何を託しているのでしょうか。おそらく「わたしのために」という想い、それゆえ「ありがたい」という想い、さらには信頼や情愛の想いなどが入り混じった感情であるように思えます。そうした複雑な感情がまさしく家族に対する感情にほかならないのでしょう。とすれば、家族は、無条件に「わたしのために」心を配ることを忘れない「ありがたい」人々です。私たちは、そうした日々の積み重ねの中で家族の深いきずなを感じているにちがいません。

このことに改めて気づかせて「くれた」数多くの作品に感謝するばかりです。

選考委員長 越 智 貢



令和5年度

## 「家族のきずなエッセイ」作品選考委員会

選考日時／令和5年10月21日(土) 14:00~16:00

選考場所／広島鯉城モラロジー事務所 会議室

委員長

**越智 貢**

広島大学名誉教授

委員

**廣田 大樹**

広島市教育委員会 学校教育部指導第一課主任指導主事

委員

**内海 知巳**

広島市PTA協議会 会長

委員

**高野 和博**

広島市退職校長会

委員

**桑島 美帆**

中国新聞社 報道センター文化担当記者

委員

**中川 喜直**

(公財)モラロジー道德教育財団中国ブロック 部長

委員

**中川 齋**

広島県モラロジー協議会 会長

委員

**宮本 伊知郎**

エッセイ募集事業 実行委員長



予備選考委員

**光原 達夫**

**石田 秀孝**

**柿木 澄男**

**正傳 彰子**

**高野 和博**

**平岡 満恵**

広島市退職校長会の6名に予備選考委員としてご尽力いただきました。  
ありがとうございました。



広島市長賞	吉田 晴輝	広島市立庚午小学校
広島市教育委員会賞	下市 創	広島市立荒神町小学校
広島市PTA協議会賞	若澤 莉杏	広島市立白島小学校
広島市退職校長会賞	谷口 遥	広島市立庚午小学校
中国新聞社賞	岡崎 晴	広島市立矢賀小学校
中国放送賞	宮崎 紗矢香	広島市立中筋小学校
広島テレビ放送賞	門田 昂己	広島市立三入小学校
広島ホームテレビ賞	伊藤 優希	広島市立矢野西小学校
テレビ新広島賞	山崎 壮真	広島市立緑井小学校
広島エフエム放送賞	鈴木 弘晃	広島市立比治山小学校
モラロジー道德教育財団賞	三野 瑞季	広島市立中野小学校
広島県モラロジー協議会賞	森本 千彩	広島市立楽々園小学校



# 自まんの妹

広島市立庚午小学校 吉田 晴輝

私の妹はきつ音です。きつ音とは「ありがとう」と言う時に、「あ、あ、ありがとう」とくり返したり、「あーありがとう」とのばしたりします。

時々、友達から、なんで妹はこのような話し方をするのか聞かれることがあります。私は「わざとこのような話し方をしているのではないので、からかったりしないでね」と説明します。

妹は、きつ音が出ていても最後まで一生けん命話をします。皆の前で司会をしたりもします。からかわれても、気にしません。私は強い妹を自まんに思います。

もし、これから妹がきつ音のことで、困ったことがあったり、つらいことがあったら、私がそばでサポートしてあげたいです。そのために、もったきつ音のことを学んで、より多くの人たちに、きつ音のことを正しく知ってほしいです。

私の自まんの妹が、悲しい思いをしないような、やさしい社会を、つくっていきたいです。



# 木の上のじいちゃん

広島市立荒神町小学校 下市 創

あ！今年もザクロの実がつき始めたな。  
ぼくは、じいちゃんに木登りを教えてもらった。ザクロの木は割と登りやすいらしい。  
じいちゃんは見本に登ってくれて、  
「絶対下で守ってやるから登ってみい。」  
「下を見ずに上を見てどこに手と足をもっていったら登れるかだけ考えろ。」と言った。  
こわごわ、きん張しながらなんとか登る事ができた。うれしかった。  
木の上から見る景色はとてもすばらしく感じた。そして、  
初めて自分でとったザクロの実を食べた。  
つぶつぶで少しすっぱかった。  
じいちゃんは「自分で取った実はおいしかろう。」と、さくらんぼやビワの木にも登らせてくれた。川土手の木を見ると、登れそうな木には一人でもちょうせんするようになった。  
ぼくに木登りの楽しさを教えてくれたじいちゃんは去年の秋とつ然、死んでしまった。  
ぼくは一しょに二度と木登りができないことが悲しくて、あれから出来ずにいる。  
だけど、ザクロの木にまた実がついているのをみた時、もう一度登ってみようかなと思った。木の上から空を見上げて、  
「じいちゃん、ぼくのぼったよ。」とほう告したい。





# いってきますのハグ

広島市立白島小学校 若澤 莉杏

私のお父さんは、毎朝仕事に行く前に家族みんなに必ずハグをします。小さいころはよろこんでしていたけど、大きくなってからは面倒だなと思う時もありました。

ある日、お父さんにどうしてみんなにハグをするのか聞いたら、「お父さんの仕事は消防士だから危険な現場に行く事が多いでしょ。無事に帰ってこられるように毎日いってきますのハグがしたいんだよ。お父さんだけじゃない、みんなが無事に元気に帰ってくる事を願ってもいるんだよ」と言っていました。その時はそうかあ…と思って流して聞いていたけど、ニュースで消防士さんが災害現場で亡くなったとかケガをしたという話や子どもが登下校中に事故にあったという話を聞くとドキッとしました。お父さんの言っている事が分かりました。何気なく毎日を過ごしているけど、いつ災害や事故にあうか分からない。毎日元気に過ごす事は大切です。

これからも毎日の「いってきます。」「いってらっしゃい。」のハグを大切にしていきたいです。そして、元気に「ただいま！」と言って家族を安心させたいです。



# ばあちゃんのせなか

広島市立庚午小学校 谷口 遥

ばあちゃんのせなかは安心する。小さいころから自転車のうしろに乗り、病院へ行った。

シングルマザーなので、かぜをひけば必ずばあちゃんにあずけられた。ふだんは元気だが、かぜをひくと三～五日はふとんの中だった。一年に一回のペースのかぜだったため、かぜをひくと不安でしかなかった。

そんなときに、ばあちゃんの大きなせなかにだきつくと、とても安心できた。

小四のとき、ひさしぶりにインフルにかかった。朝は少し熱があるだけだったけど、どんどん熱が上がってしんどくなってきた。くらくら目まいがしたため、ばあちゃんの自転車のうしろに乗った。なんだかさみしくなり、昔のようにせなかにだきついた。すると、やっぱり昔のように安心した。病院に着くまでばあちゃんは「大丈夫。」や「心配せんでいいよ。」とか寒いだじゃれなどを言って、私をはげましてくれた。少し、なみだがこぼれた。

ふだんは暑苦しかったり、はずかしかったりで、だきつけないけど。私はばあちゃんのせなかがどんな言葉よりも安心できる。



# 父さんとの約束

広島市立矢賀小学校 岡崎 晴

自分で言うのもなんだけど、ぼくは最近反抗期だ。母さんとよく言い合いになる。ぼくの家には、父さんが決めた約束事がある。どんなにケンカをしていても朝家を出るときは「行ってきます」「行ってらっしゃい」と言うこと。父さんの行ってきますには「事こなく元気で帰ってくるよ」母さんの行ってらっしゃいには「楽しい一日を過ごしてね」の意味がこめられているようだ。これってそんなに大事？ぼくにはよくわからない。だけど昔聞いたことがある。ぼくがまだ小さいころ父さんが事故で集中治療室に入っていたって。当たり前前にできていたことが急にできなくなったらしい。立ち上がることも、トイレやお風呂も自分一人ではできない。かゆくても自分でかくこともできないし、ぼくと妹をだっこすることもできない。想像したら少しこわくなってきた。当たり前の毎日は幸せなのかもしれない。母さんとのケンカもほどほどにしようと思う。ケンカしたまま家族がはなれてくらすことになったら悲しいから。ぼくは今日も元気に家に帰ろうと思う。大きな声で「ただいま」と言うと母さんがうれしそうに「おかえり」と言ってくれるから。



# ありがとうお母さん

広島市立中筋小学校 宮崎 紗矢香

私を産んでくれたお母さん、いろいろな所へつれてってくれたし、一番いっしょにいてくれて、うれしかったです。私は、小さいころから、姉弟がほしいと思っていました。私が1年生のころ、そのねがいがかないました。それから、4人家ぞくになってうれしかったけど、3年生のころお母さんが大ちょうがんになり、夏休みは、お母さんに、会えませんでした。退院しても、お母さんは病院にかよっていました。そして、4年生の11月ついに、おわかれがきてしまいました。その時は、言葉がでずになくことしか、できませんでした。おそう式には、お友達やしんせき全員きてくれました。おそう式もかそうもおえ家に帰っても、私はかなしい気持ちしか、ありませんでした。

でも私はきめました。お母さんがしてきたことを、てつだって、ちゃんと勉強も習い事もがんばっていきたいと思いました。あんなにやさしかったお母さんがいなくなることの心の、きずもあるけど、このやる気をくれたお母さん、私を産んでくれたお母さん、本当に、いままでありがとうございました。



# 歩けなかった自分

広島市立三入小学校 門田 昂己

ぼくは、一才になってもね返りが出来ませんでした。つかまり立ちも歩く事も出来ませんでした。股関節と筋肉がやわらかすぎたようです。お母さんは、病院の先生に、リョウ育センターに行くようにと言われました。とても不安だったと言っていました。絶対に歩けるようになってほしいと、お母さんとぼくはリョウ育センターに通い、理学リョウ法士さんと色々な特訓をしました。家では、お父さんと遊びながら特訓をしました。小さかったので、ぼくは覚えていないけど、お姉ちゃんが大きな声で応えんをしている動画や、初めて立ち上がった時に、おばあちゃんがよろこびをしている動画を見ました。みんなが応えんしてくれたことを知り、とてもうれしかったです。家族みんなでがんばって、ぼくは、二才になる少し前に歩けるようになりました。今ぼくは、スイミングの強化選手として、毎日練習をがんばっています。いつかオリンピックに出場して、応えんしてくれた家族をよろこばせるのがぼくの夢です。



# 笑顔

広島市立矢野西小学校 伊藤 優希

去年、私に弟がふえました。

その弟は、病気をもって生まれてきました。

病気のことを聞いたときは、びっくりしたのとかわいそうという気持ちで何も言えず涙があふれてきました。

弟は、この一年で4回の手術をしました。弟が入院中はお母さんが付きそいで、家にいませんでした。私は、毎日とてもさみしかったです。でも、お母さんにそのことを言えませんでした。弟が、しんどい思いをしてがんばっているからです。私にできることは、がまんすることしかないと思っていました。

すると、お母さんが電話で、

「ごめんね。さみしい思いばかりさせて。」

と言ってきました。

私は、お母さんが自分のことをわかっていてくれたのがうれしかったです。

「お母さんも家族みんなと一緒にうれんのがさみしいよ。」

と言っていてさみしいのは私だけではないのだと思いました。

お母さんはいつも言います。

「つらい時こそ笑顔で。いつもにこにこよ。」

と。だから私は、どんな時も笑顔でいます。

これからもずっと。



# ぼくのヒーロー おじいちゃん

広島市立緑井小学校 山崎 壮真

五年前の冬、大好きだったおじいちゃんが亡くなりました。おじいちゃんの写真を見ると、たくさんの元気、思い出、頑張ろうと思う勇気がわいてきます。動物園や水族館、旅行にも連れて行ってもらいました。大きな声、優しい笑顔、つないでくれた温かい手のぬくもり、たくさん甘えさせてもらったこと、全てが大切な思い出です。肺に病気が見つかったからの半年間、とても苦しかったはずなのに、ぼくたち家族にそんな姿を見せずに、笑顔で「元気になるからね。」と頑張ってくれていました。おじいちゃんとの別れの日は突然で、とても悲しくて信じたくありませんでした。まだまだ一緒にいたかった、たくさん話もしたかった、その願いはもう叶うことはないけれど、両手いっぱいもらった思い出はぼくの宝物です。いつかぼくに新しい家族ができたとき、優しく温かい存在だったおじいちゃんとの思い出を話そうと思います。

誰からも頼りにされていて、絵も上手で、手先も器用で何でも出来たおじいちゃんは今後もずっと、ぼくのヒーローです。ぼくの小学校入学式に出席することを楽しみにしてくれていたおじいちゃん、ランドセル姿のぼくは天国からかっこよく見えていますか。



# ひいおじいちゃんのアメ

広島市立比治山小学校 鈴木 弘晃

二年生になる年の春休み、明日は学校だと思い、楽しみにしていた日の夜ひいおじいちゃんはなくなりました。大分の病院に入院していたひいおじいちゃんは、一年ほどの長い間入院していました。その間、長い休みがあった時には何回もおみまいにいきました。

元気だった時には、いつも大きなまどの横においてあるイスにすわって、外にある畑をいつも見ていました。ごまどうふとあまい物が好きで、おやつ時には、少しぼくに分けてくれていました。おやつじゃない時でも、いつもポケットの中にアメが入っていて、ひいおばあちゃんに気付かれない時は、いつも口の中に入っていました。

しかし、入院してからは、食べられなくなって鼻とのどからチューブが入っていました。それでも、ぼくがおみまいに行くとわらって手をにぎってくれました。手はどんどん細くなって、かんそうしてきて、そのすがたを見て、ぼくがどうにかできないのか自分が無力だと感じました。

ひいおじいちゃんは八十四才でなくなりました。ぼくは、ひいおじいちゃん分もがんばって生きたいです。おそうしきの後、ポケットからアメが出てきました。





# 兄から教えてもらったこと

広島市立中野小学校 三野 瑞季

わたしの家族は五人です。両親と六つ上の兄と一つ下の妹とわたしです。私の兄は知的障害があります。身の回りの生活は一人でできませんが、宿題を忘れてたり、指示を忘れることが多かったです。そんな兄を紹介したいと思います。母に兄の病気のことをくわしく聞くと生まれる半年前に病気が、わかったそうです。母は、看護師なので、医師の説明で重い病気だとすぐにわかったそうです。兄の面倒を一番みていた母が、昨年病気になりました。安静が必要だったので家族みんなで家事の分担をしました。一番家族の中で家事ができるようになったのはなんと兄でした。怒りの沈め方がわからず、家から物を投げたりしたりしたことがある兄です。兄は、母が病気がよくなっても家事も手伝い続けていました。今では、晩御飯も一通りできるようになりました。兄は障害はあるけれど、一人一人得意なことを見つけて、長所を伸ばしていくことは、わたしは大切だと思いました。できないことをできることにするために、いろいろな経験をしてたくさんみつけることが大切であると兄が教えてくれました。わたしも、これから色々な経験をして、できることをたくさん増やそうと思いました。



# お母さんのまほうの手

広島市立楽々園小学校 森本 千彩

わたしが保育園に通っていたころ、いつもは車で登園するが雪の日はお母さんと家から歩いて行くのだった。雪がたくさんつもとわたしはとてもうれしかった。雪だるまを作ったり、雪がっせんをしたり雪で遊べるからだ。しかし、とても寒い。ぶるぶるとふるえてしまう。寒いのはちょっときらいだ。

「寒い。」

と言うと、お母さんはわたしの冷たい手をぎゅっとにぎって、

「寒いね。」

と言ってくれる。お母さんと手をにぎると体も心も少しあたたかくなったような気がする。そして自然と笑顔になる。お母さんと話すと寒さなんて忘れてしまう。

「もうすぐ着くよ。」

とお母さんがわたしの手をもう一度ぎゅっとにぎり、わたしは、

「うん。」

と元気よく返事をした。

夕方になりお母さんがむかえに来てくれた。帰りもいっしょに手をつないで帰れる。今日は特別な一日。

小さいころの寒い日のわたしのぽかぽかあたたかい思い出だ。



## おじいちゃんの「おでん」

広島市立長束小学校 土井 玲奈

お正月とお盆におじいちゃんの家に行くと、いつもおじいちゃんが「おでん」を作って待っていてくれました。私は好き嫌いが多いけど、おじいちゃんの「おでん」だと豆ふやこんにゃくも食べることができました。おでんを食べた後、皆で正月用のおもちつきをしたりしました。

二〇二一年の七月、おじいちゃんが亡くなってしまいました。お父さんのたん生日の次の日でした。コロナ禍でお見まいにも行けず、おじいちゃんが元気になるよう、願っていましたが、かないませんでした。

おそう式には参加できました。私は泣かない

ようにしていましたが、おじいちゃんの棺にお花や思い出の品を入れるときに泣いてしまいました。私が、おじいちゃんのおでんが大好きだったことを知っていたおばあちゃんは、私たちが帰省するたびに、「まだおじいちゃんの味にはおいついてないかもねえ」と言いながら、いつもおでんを作って出むかえてくれます。おばあちゃんのおでんも愛情いっぱい、美味しいです。私が「おいしい」と言っておでんを食べる姿をおばあちゃんはやさしい顔で見守ってくれています。これからもおばあちゃんのおでんを食べたいです。



## 「やっと会えたね」

広島市立古田小学校 春田 悠華

ここ数年、今まで当たり前だった事が当たり前ではなくなって、会いたい人にも会えない日々が続いていて、その1人が東京に住んでいるひいおばあちゃん。

ひいおばあちゃんは97才。もうかなりお年をとって、今まではケガをしても入院してもすぐにかけて会に行けたのに、会に行けなくなって、とてもさみしかったです。時々リモートではお話ししたりしていたけれど、ひいおばあちゃんはいつも私の事ばかり気にしてくれていました。この前やっとコロナの人数がへってきたので4年ぶりにひいおばあちゃんに会う事が出来ました。会

えた時は、ぎゅーとだきついて自然と涙が出てきて、ひいおばあちゃんを見たらひいおばあちゃんも泣いてよろこんでいました。「大きくなったね。」と頭をたくさんでてくれました。やっぱりリモートとかではなく直接会ってお話をしたり、だきしめたりする事はおたがいがすごく幸せになれるすてきな事なんだなとあらためて思いました。これが家族のきずなだなと思いました。

私の事を近くに行ってもはなれていても見守ってくれている家族のみんなありがとう。

大好きだよ。



## 雪の配達

広島市立五日市観音西小学校 瀬戸 貫太

そのころは、コロナが始まり学校が休校になっていました。毎年ぼくはこの時期におじいちゃんと雪遊びをします。

おじいちゃんの家まではぼくの家から車で一時間ほどかかります。でも会いに行けずさびしい日々が続きました。

毎年おじいちゃんの地域ではたくさんの雪がふります。その日も雪がふりました。でもぼくの家はすぐにとけてしまいました。その事を知ったおじいちゃんは、ぼくの事を思ってたくさんの雪を集めて軽トラックでどけてくれました。山のように積まれたたくさんの雪を見てありがとうと言う気持ちがと

まりませんでした。そんなぼくを見ておじいちゃんにはっこりと笑ってとてもよろこんでくれました。ぼくはその雪を使って夕方まで夢中で遊びました。おじいちゃんはこしや手がいたいのにはぼくのためにがんばってくれたと思うとつかれただろうな、大変だっただろうなと思いました。おじいちゃんにはやさしくして長生きしてほしいです。

どんな時も見守ってくれる家族がいる事に感しゃしました。



## ひいおばあちゃんの五〇〇円玉

広島市立毘沙門台小学校 廣藤 隆佑

ひいおばあちゃんは、去年5月になくなりました。九十四さいでした。

まだ元気でお家でくらししていたころ、ひいおばあちゃんの所へ行くといつも五〇〇円玉をぼくにくれました。その五〇〇円玉は、きらきらしてつるつるしていました。他にも、ぼくの好きなおかしも用意してありました。もらうとぼくはよろこんでいました。あと、「くつある?」と聞いてくれたりもしました。ひいおばあちゃんは、よくお母さんとおばあちゃんがいなくて「ないしょよ!」と言ってぼくに、五〇〇円玉をわたしてくれました。

小さいころのぼくは、一万円や千円札より、

大きくてきらきらな五〇〇円玉をもらうことのほうをよろこんでいたとお母さんから聞き、ぼくのために、わざわざきれいな五〇〇円玉を集めていたと知りました。今もその五〇〇円玉は、大切な木箱に入れてもっています。今見ると、きらきらではなくなっていました。今はもう、会えないけどひいおばあちゃんとの思い出は、しっかり思い出すことができ、会いたくなります。きずなって何?と考えると、よく分からなかったけど、ぼくのきずなの一つは、ぼくとひいおばあちゃんの五〇〇円玉です。



## おばあちゃんからのおくりもの

広島市立祇園小学校 中村 桃子

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、近所に住んでいる。手持ち花火を持っていて遊んだり、親戚で集まってBBQをすることもあった。おばあちゃんは料理や絵が得意で、昔は、家に行ってお絵書きをして遊んでいた。だが、今ではコロナウイルスにより、家にあがるのは危険だということで、いっしょに遊べなくなってしまった。そんなある日、修学旅行を終えた兄に、おばあちゃんから手紙がとどいた。それは、絵はがきだった。うらには、おばあちゃんが書いた絵とメッセージが書いてあり、おもてのはしに、長い文章が書いてあった。わたしはそれを見て、

わたしもほしいとねだった。それ以降、おばあちゃんは、季節の花の絵や行事の絵などを送ってくれるようになった。わたしがよろこぶと、おばあちゃんもうれしそうにする。そして、はがきを送ってくれたら、教えてくれる。

わたしは、学校帰り、ポストを毎日かくんして、はがきが入ってないかさがす。みつけたら文章を読んで、部屋にかざる。おばあちゃんの絵は、サラサラと書いたふちにうすい色を重ねている。ふちからはみでて色が混ざっている、おばあちゃんの絵が、

わたしはとっても好きだ。



## いつかは来る、お別れの時

広島市立亀山小学校 小林 悠

僕の曾祖母は、今年で九十三歳になりました。父方の祖母と二人で暮らしています。色々な場面で介護を必要としていますが、家まで遊びに行った時、ご飯を美味しく食べている姿を見るとホッとします。

長生きしていて、今も頑張っている曾祖母ですが、「一緒にいられる時間が残り少ないのでは…」と考えるようになってきました。家に遊びに行くと、

「よう来たね。大きくなったねえ。」

と言って出迎えてくれます。肩をもんであげると、

「気持ちがあええよ。上手じゃねえ。」

と喜んでくれます。それが毎回のように繰り返されます。同じことを言われるのも、それは「曾祖母がそこにいる」から成り立っているのです。あと七年で百歳になる曾祖母。この「当たり前」のやり取りができなくなる日がつれてもおかしくないのだと感じています。

曾祖母は、歳はとるけど今後も変わらないと僕は思います。一方で僕は、曾祖母の百歳と同じ年に成人になり、就職もするでしょう。お別れの時の直前まで、曾祖母とふれあひながら勉強もして、心の中の曾祖母に、夢だった仕事をする自分を見せてあげたいです。



## 私のたからもの

広島市立大河小学校 加茂 佳乃

私の大切な弟・佑くんは、うまれてすぐ母とはなれ、病院の保育室で三週間一人で過ごしていました。私はその時二才半だったのであまり覚えてはいませんが、母が毎日弟の様子をうかがいに病院に行っていたそうです。

私はお姉ちゃんになるのがとても楽しみで、まだ弟が母のおなかの中にいる時もずっと弟に話しかけていました。「どんな子かな。」とか「かわいいだろうな。」と想像するだけでワクワクしました。

弟がうまれて三週間がたち、ようやく退院してきました。弟は目がくりくりでほっぺがプニプニムチムチでとてもかわいかったで

す。弟は私と会った時からずっとニコニコ笑顔で周りの人を幸せにしてくれます。

時々、弟とけんかをして、もう顔も見たくないと思う時もあります。でも、親にしかかれて落ちこんでいる時、弟がそっと近づいて、「ねえね、大丈夫だよ。」

とせなかをさすってはげまして、一緒にあまりに行ってくれます。そんな時は、頼れるお兄さんみたいに感じ、また一段と弟を大切に感じます。

大好きな佑くん、うまれてきてくれてありがとう。けんかもするけど仲良くすごそうね。



## おかえり、お父さん

広島市立五日市中央小学校 加藤 未衣

「ただいま。」げんかんからお父さんの声でした。私は急いでげんかんまで走っていった。私のお父さんは単身ふにんで福岡に住んでいる。私達が生活している家にはたまにしか帰って来られない。だから、私はお父さんが帰って来る日はとてもうれしい。私が大きな声で「おかえり！」と言うと、お父さんは、もっと大きな声でもう一回「ただいま。」と言って頭をなでてくれた。私はお父さんに話したいことがたくさんある。いっしょに遊びに行きたい所もたくさんある。お父さんは、テレビにカーブが出ているのを見つけるとドカッとすわった。カーブが大好きなお父さんは、い

つも勝っても負けても大さわざだ。夢中になってどンドン声が大きくなるお父さんに、お母さんが「もうちょっと小さい声でおうえんしんさい。」と言って笑った。でも私は、こんな元気でおもしろいお父さんが大好きだ。単身ふにんでさみしいと思うけれど、家族のために一生けんめいがんばっているお父さんのことを私はそんけいしている。お父さんは、食べ物の好ききらいが多いので、もっと野菜をたくさん食べて、ずっと健康で長生きしてほしい。お父さん、いつもありがとう。大好きだよ。



## わたしのおばあちゃん

広島市立段原小学校 井上 和奏

私のおばあちゃんは神戸に住んでいます。コロナになってから、ずっと神戸に行けなかったもので、一年生のとき以来会えていません。

おばあちゃんは、筆まめで、私たちによく手紙を書いてくれます。でも字が達筆すぎて読めないことがあるので、お母さんに読んでもらいます。私や兄のたん生日には必ず手紙をくれます。大体いつも同じような内容だけど「和奏さんが生まれてきてくれてよかった」と書いてくれるのでうれしいです。

わたしたち家族に何か心配事があると、近くのお地ぞうさまに行っておいのりしてくれます。暑い日も寒い日もどんな日でも行って

くれます。そして、「お地ぞうさんに参ったから大丈夫やで。」と電話をしてくれます。おばあちゃんからの電話は受話器を耳にあなくても聞こえてくるぐらい声が大きくて、八十才を超えているとは思えないぐらい元気です。

私は兄から「おばあちゃんに似ている。」と言われます。自分ではよく分からないけど、見た目が似ているようです。筆まめで、家族思いで、いつも元気なおばあちゃん、そんなところも似るといいなと思います。

今度のお正月は会いに行けるといいな。



## やさしいお兄ちゃん

広島市立向洋新町小学校 神田 煌華

私には、四さい上のお兄ちゃんがあります。おもしろくてやさしいお兄ちゃんです。

お兄ちゃんは、私が生まれるのを楽しみにしていて、お母さんがアイスクリームを食べていると、「赤ちゃんが冷たいってなるからダメよ。」とお母さんに注意したり、「おなかの赤ちゃんがつぶれるといけないから。」と言って、お母さんがだっこしようとしても、断っていたそうです。

私が生まれてからも、私が泣いていると、一番にとんできて、あやしてくれていたそうです。一緒にお風呂に入ると、かみを洗ってくれました。お兄ちゃんがとても上手に洗っ

てくれたので、私のかみは、いつもさらさらでした。お父さんが洗うと、かみがぐしゃぐしゃになるので、お兄ちゃんと一緒に入っていました。

お兄ちゃんが中学校に入ると、中学校の話をたくさんしてくるので、楽しそうです。でも、おなじ話を二回してきたりするので、やめてほしいです。それでも、お店とかにいくと、はぐれないように、一緒にいてくれるので、やさしいお兄ちゃんです。これからも、やさしいお兄ちゃんであってほしいと思います。



## 本当は大好きだよ

広島市立中野東小学校 上原 香夏

私には、弟がいます。弟とは毎日のようにケンカをしています。足をふんだ、テレビの音が大きい、半分こをしたときは、「そっちの方が大きい。」など小さなことで大ゲンカになることだってあります。

お父さんとお母さんは、「いいかげんにしなさい。」と私たちをしかります。でも、しかられると私たちは「だって」や「でも」と言い絶対に自分は悪くないとまたケンカをはじめます。

でも、私たちはいつもいっしょにいます。トランプをしたりオセロをしたり折り紙をしたり、弟と遊んでるときはとっても楽しいです。

こうやって弟とずっと楽しく過ごせたらいいのになど私はいつも思います。

でも、絶対ケンカになってしまう。おこると思っていないこともつい口に出てしまいます。「大きい」と言ってしまったときがありました。弟はおこってどこかへ行ってしまいました。私は、言ったことをすごく後悔しました。そんなこと少しも思っていなかったから言ってしまったことがすごく悲しかったです。だから、私は「大きい」と言う言葉を絶対に絶対に使わないようにしました。

ケンカしてもずっと大好きだよ。



## おこられるのは自分のため

広島市立中野小学校 木下 優奈

みなさんは、おこられるとはらがたちますよね。でもおこられるということは大切なことです。自分が悪いことをしたのにおこられずそれを続けていたら、友達にきらわれたり人にめいわくをかけることになるかもしれません。けれど、おこられることで、自分が悪いことをしたのだと分かります。なので、おこられることは、大事なことです。

だれがおこってくれるのかと考えたとき、おこってくれるのは家族だけだと思いました。今までおこられたときは、なぜ自分がおこられないといけないのか、なぜ自分だけおこられないといけないのかと、ムカッとして

いました。ですが、ふと考えた時に、本気でおこってくれるのは家族だけだと感じました。

自分のためにおこってくれるのは家族だけ。他人はおこってくれない。そういうことを考えると家族がおこってくれることは、とてもありがたいことです。そんな家族をこれからも大切にしていきたいと思います。



## 親こうこう

広島市立中野東小学校 伏見 友希

お母さんは、毎日家事をしてきている。そうじをしたり、服をせんたくしたり、ゴミすてをしたり、ご飯を作るなどたくさんのことをしている。

「ぼくが大人になったら、たくさん親こうこうするよ。」

と言うと、

「もう親こうこうはじゅうぶんしてくれたよ。」

とお母さんは言った。

ぼくは、親こうこうをしたらどうか?と思った。

ぼくは考えたでも分からなかった。

3週間後、お父さんとご飯を食べに行った。いろいろな話をしながら、ご飯が来るのを待った。ぼくは思った。「お父さんはいつもぼくと遊んでくれた。そのたびに楽しかった。」ぼくは聞いてみた。

「お父さんがしあわせなことってなに。」

するとお父さんは答えた。

「友希が笑顔でいてくれることだ。」

と言った。

お母さんの言葉の意味が少し分かったような気がした。



## 週末の夜ごはん

広島市立三篠小学校 小田野 太揮

ぼくは、週末の夜ごはんが大好きです。ふだんは、お父さんが仕事でおそいし、ぼくやお姉ちゃんも習い事があって、家族全員でゆっくりごはんを食べられません。だけど、週末は、家族四人でいろんな話をしながら食べるので、とても楽しいです。

この前は、お姉ちゃんの宿題の作文のテーマの話から、オバケの話になり、お父さんとお母さんの体験したこわい話を話し始めました。お姉ちゃんがギャーギャーこわがっていました。ぼくは、うるさいお姉ちゃんがおもしろくて笑っていました。

みんなで食べる夜ごはんは、いつもよりお

いしく感じます。けんかになることもあるけど、みんなで話していると、いつの間にか大声で笑ったり、もり上がって話が止まらなくなったりします。

ぼくは、この夜ごはんの時間がなんだか心があたたかくなって、元気になるので、大好きです。そして、こんな家族がぼくの一番の宝だと思います。



## 妹の発表

広島市立牛田新町小学校 野村 遥希

ぼくの家族は、ぼくと兄と妹と両親がいます。ぼくは小学五年生で兄は中学生で妹は小学二年生です。みんなとても仲が良いです。

兄とは、一しょにバスケットをしたり、遊んだりしています。

妹とは、兄弟みんなで遊んだり、ゲームをしています。

少し前に、平和集会があって、妹がみんなの前で発表することになりました。ぼくも発表があったので一しょにリハーサルをしました。本番の日、妹はちゃんと言葉が言えるか不安そうでした。お母さんが、

「お兄ちゃんがいるから、大丈夫よ。」

と、言っていました。そしてぼくに、頭が真っ白になっていたら、助けるように言ってきました。

本番では、ぼくがマイクをもって、妹が発表しました。その時ぼくは小さい声でがんばれと伝えました。妹は上手にクラス代表の言葉を言えました。ぼくは、とても安心しました。

帰って、みんなに話したらとてもよろこんでいました。お母さんにもすごく感しゃされました。これからもみんなで助け合っていきたいです。



## 似た者同士

広島市立草津小学校 青木 結愛

私は、おばあちゃんの家で1月2、3回の程度で行く。ご飯を食べ終わると、だれかが「トランプしよう？」と時間があればかならず言う。私はこれがあたりまえだと思っている。家族とトランプで遊ぶときは、だいたい「七ならべ」になる。七ならべの時、かならずだれかがいじ悪をする。しょうぶが終って、私は負けたくやしいから、「もう1回！」の一点張りだ。ただ、くやしいと思うのは、私だけじゃない。おばあちゃんもだ。私もおばあちゃんも負けずぎらいだ。七ならべが終わると、父と母は歯をみがき、おじいちゃんも2階へ行く。が、私とおばあちゃんは2人残っ

て「スピード」をする。私もおばあちゃんも勝ちたいから、2回ずつ勝つまでです。私はこの後歯をみがいて帰る。私は帰ると中にいつも思う事が、1つだけある。それは、私もおばあちゃんも持っている。「負けずぎらい」という、特別な、特長を。きっとおばあちゃんが、母を通して私にくれた「こせい」の1つなのかもしれない、と。だから、仲良くできるのかもしれない。「負けずぎらい」という共通点が、私とおばあちゃんをつないでいる。また、おばあちゃんに会いたいと思える。似た者同士だから。



## そんなお母さんにきらいと言えない

広島市立可部小学校 濱崎 煌

ぼくは、反抗期ののだろうけど、毎日毎日お母さんの言う事を聞かずに反抗したりしてケンカになり、おこられる。この前も、ゲームばかりしておこられた。それなのに、キレながらもとてもおいしいごはんをつくってくれる。いかりがきえるほどのおいしさ、とてもおこっているけど、とても愛情がこもっているのが伝わってくる。それほど自分を大事に育ててくれている事がとても分かる。だから、とてもうれしくてついつい、「おいしい!!」

と言ってしまう。

そしたらお母さんが、「ありがとう。」とおこっていると思わないやさしい声で言った。だからぼくは、そんなお母さんにきらいと言えない。だからお母さんも、自分にきらいと言っていない。そんなお母さんがいてくれてとてもうれしい。毎日反抗してしまうけどこれからもよろしく。





## 大切なおじいちゃん

広島市立日浦小学校 藤川 莉央

二〇二二年八月二十七日の朝おじいちゃんがなくなりました。やさしくて、笑っている顔が大好きでした。おじいちゃんをつりをしたり、竹を切ってそうめん流しの台を作ってくれたり遊びに行くとおいしいすき焼きを作ってくれました。家も近くてよく会っていたのでなくなったと連絡がきても信じられませんでした。泣きながらお母さんと病院に行きました。いつもより道が長く感じました。病院に着くとおじいちゃんは、笑ってねているように見えました。おじいちゃんに何度も、「おじいちゃん起きて」と言いました。おじいちゃんの顔を見ているといろいろな事を思

いだしてなみだが出てきました。もっとおじいちゃんとしょにいたかったです。家族もみんな泣いていました。きっとみんな同じ気持ちだったと思います。あれから一年がたちました。一年間おじいちゃんに会えていないけど、笑った顔や声はすぐ思い出せます。おじいちゃんの部屋はおじいちゃんのおいが残っていて、行くとおじいちゃんに会えたような気がしてとても大好きな場所です。おじいちゃんは、私の心の中で生きています。



## リクエスト券

広島市立五日市南小学校 田中 萌々夏

「よし、決めた。オムライスお願い。」わたしはお母さんに夕飯をリクエストした。お母さんからもらった「リクエスト券」を使ったからだ。

リクエスト券は、自主勉強を十ページするとお母さんからもらえる。名刺サイズで手書きで作られていて、好きな料理を書き込むと、夕飯にその料理を作ってもらえるという券だ。めったに手に入れられない券だから、料理名を書く時は毎回とても悩む。書くまでに何日もかかったこともある。

できたてのオムライスの味は最高だった。ケチャップでわたしの名前を書いてくれた

り、家族のみんながありがとうと言ってくれた。自分が食べたい料理を選んだだけなのに。自分のがんばりが、家族をよろこばせたんだと思うと、なんだか誇らしい気持ちになった。

正直、自主勉強十ページは難しい。夏休みや漢字のテスト勉強でしか達成したことがない。だけど、券をもらえた時のうれしさはたまらない。わたしにとってリクエスト券は、努力のあかしだ。おいしい料理のために、十ページ、またがんばってみようかな。



## おばあちゃんの畑

広島市立楽々園小学校 堀 隼佑

ぼくは、おばあちゃんの事が大好きです。おばあちゃんは、ぼくに色々な事を教えてください。例えばいっしょに畑に行った時に「この季節にはこんな花がさくんだよ。」とか「タケノコはいずれこんなりっぱな竹に成長するんだよ。」と教えてください。おばあちゃんは広い畑を一人で手入れしています。ぼくが生まれて少したったころおじいちゃんが亡くなったからです。おばあちゃんの畑には、りっぱな梅やくりの木があります。その畑におばあちゃんと一緒にいくのが大好きです。

ようち園の時から六月には梅をとりに行き、九月にはくりをとりに行っています。梅

の木もくりの木もたくさん生えているので、たくさん梅やくりをとる事が出来ます。今年も六月に梅をとるお手伝いをしました。おばあちゃんは木の生えているそばの屋根に登ってそこから木の枝を切ったりゆらしたりするので、ぼくは下であみを持ってキャッチします。

いつもは一人でその作業を全部しているので、大変だと思います。おばあちゃんが高い所で作業しているすがたを見ると落ちたりしないかと心配になります。中学生になったらおばあちゃんの代わりにぼくが屋根に登っておばあちゃんを楽にさせてあげたいです。



## おじいちゃんおばあちゃんとの夏休み

広島市立五日市観音西小学校 油野 弘

夏休みに山口県にいるおじいちゃんとおばあちゃんの家に行きました。ぼくはお母さんと一つ約束をしました。それは、山口にゲーム機を持って行かないことです。ぼくは、きっとひまでたいくつだと思っていました。

しかし、おじいちゃんとおばあちゃんの家ではみんなでたっ球をしたり、百人一首でぼうずめくりをしたり、オセロやトランプに五目並べもしました。五目並べは特に楽しくておじいちゃんが強くて何度も負けたけど、帰るまでなんども勝負をして最後は勝つことが出来ました。おじいちゃんは、「すごいすごい」と何度もほめてくれて囲ご板をぼくにくれま

した。ゲーム機が無くても楽しい時間を過ごすことができました。たいくつだと思っていた時間はあっという間でした。お別れとのおきなみだが出ました。この時家族のきずなを感じる事ができました。とても楽しい夏休みの思い出になりました。

ぼくは、また来年もおじいちゃんとおばあちゃんの家に行きたいです。その時はぼくの、かばんの中にはゲーム機ではなく、おじいちゃんにもらった囲ご板を持って行こうと思います。



## 元気になってねおばあちゃん

広島市立東野小学校 藤井 陽菜

わたしのおばあちゃんは、料理がとても上手で、遊びに行くたびにてんぷらやちらしずし、茶わんむしなどのごちそうを用意してくれていました。わたしはおばあちゃんの手料理が大好きでした。

でも、去年おじいちゃんが入院してからは、「ひとりぼっちでさみしい。」と言ってすっかり元気がなくなってしまいました。大好きだった料理も作らなくなり、五キロもやせてしまいました。そのため、お母さんは心配して毎日電話をするようになりました。おばあちゃんは、「ひなの声を聞くと元気が出る。」と言ってくれます。だから、できるだけわた

しも電話で話すようにしています。そして、時々お母さんの手料理を持って、おばあちゃんの家に行っています。行くたびに、おばあちゃんが一人ではできない事を手伝っています。おばあちゃんはとてもよろこんでくれます。

わたしはこれからも、おばあちゃんと電話で話をしたり、時々お手伝いに行ったりしたいです。次に家に行くときは、家庭科で習ったほうれん草のおひたしなどを作ってあげたいです。おばあちゃんには、ずっと元気でいてほしいです。



## 私のじいちゃん

広島市立皆実小学校 井上 瑞希

私のじいちゃんは、いつも元気だ。私達が遊びに行くと、どこからともなく現れ、手を上に挙げ「よう来たね。」と大きな声で出迎えてくれる。それも、最高の笑顔で。

じいちゃんは、毎回私と弟の遊びにつき合ってくれる。庭で水でっぼうをする時は、新聞紙で的を作ってくれる。最後はじいちゃんが的になり、ぬれる。ゴルフをしてみたいと言うと、庭のしばふに穴をほり、使わなくなった茶わんをうめた。手作りのゴルフコースの完成だ。野球をしたいと言ったら、何十球でもボールを投げしてくれる。投げるたびに、「よし行け。」「おいしい。」「いいよー。」と元

気が出る声かけをしてくれる。とってもやさしい。

そして、お決まりの場所に行く。それが、サービスエリアのソフトクリーム屋さんだ。「ドライブ行こうやあ。」と私と弟に声をかけ、じいちゃんの車で向かう。必ずソフトクリームを三つ買い、三人でならんで食べる。海の風が当たって気持ちいい。格別だ。

こんなじいちゃんがおもしろい。よくしゃべって、よく食べて、よくねる。だから元気だと思う。これが私のじまんのじいちゃんだ。



## ぼくの家族

広島市立庚午小学校 阿出川 祐仁

ぼくの家は、お父さんとお母さんとお兄ちゃんとぼくの四人家族です。お母さんは家の中で一番いそがしくて大変だと思うのに、いつもぼくたち家族の事を一番気にしてくれています。

ぼくがいつもおどろくのは「おはよう」や「ただいま」の声でお母さんはぼくの事を全部わかってきていることです。

「おはよう」で「あれ？ちょっとしんどい？」と聞いてきてくれたり「ただいま」の声で「学校で何かあった？」と聞いてくれます。「何でわかるのかな？」とびっくりするけどお母さんは「家族なんだから当たり前よ」といつも言っ

ています。

話をする時は、家事をやめて聞いてくれます。そしてお父さんにも話して「そういう時はこうした方が良いよね」とお父さんとお母さんが同じ意見でアドバイスをくれます。どんな時でもぼくたちの事を一番に考えてくれます。いつもやさしいお父さんとお母さんだけど、お兄ちゃんとケンカをした時だけは「うるさい！いいかげんにしろ！」と外に出されたり、まるで別人のようにおこってとてもこわいです。

家族が仲良くしていると、いつもやさしいお父さんとお母さんなのでぼくもなるべくお兄ちゃんとケンカしないようにしたいです。



## ひいおじいちゃんへの自分の思い

広島市立高須小学校 松本 英磨

今年の四月二十四日。ひいおじいちゃんが、もって一週間と余命宣告を受けた。それを聞いたぼく達家族は、二日後ひいおじいちゃん家に行った。

ぼくは、ひいおじいちゃんの苦しむすがたを見て、思わず声を掛けた。「大丈夫？ひいおじいちゃん、百歳以上生きてや。」と言うと、ひいおじいちゃんはずいぶん泣いた。ぼく達が行ったことにより、一時的に回ふくしたが、その三日後、亡くなった。

その次の日、おそう式に行った。「もっと長生きしてほしい、」「色んな事を聞きたかった、」「もっともっと遊びたかった、」とい

う思いを込めて、自分の心の底から声を出し、お経を唱えた。その日は雲一つない、晴天だった。だから、きっとぼくの思いが届き、ひいおじいちゃんは天国で、ぼくのことを見守ってくれているだろう。ひいおじいちゃんの亡くなる姿を見て、生きている事が、当たり前前ではない。

ぼくは、一日一日を大切にし、ご飯を食べたり、学校に通ったりと、何事にも感しゃし、生きて行こうと感じた。ひいおじいちゃん分も。



## わたしにとって大切な存在

広島市立向洋新町小学校 上重 愛心

わたしは、いつもお母さんの言葉に元気もらっています。

その言葉とは、「お母さんは、どんなことがあってもいつも、まなみの味方だからね。」と言ってくれることです。

わたしにとって、その言葉は自分が強くなることができる言葉です。特に、学校でいやなことがあったり、友達から何気ない一言にきずついてしまうことがあっても、お母さんの言葉を思い出すと、自分は一人じゃないんだと思い、がんばろうと思うことができます。

四年生のころ、新しいクラスにすぐになじめず、学校に行く時間になると急におなかが

いたくなることがありました。登校中にも、おなかがいたくなることもあり、家に帰ったことも何度もありました。家に帰ると、お母さんは、「どうしたん？またおなかがいたくなったの？」と言って、落ち着くまでわたしを待って、学校まで車で送ってくれました。その時も、お母さんはわたしに「不安なことがあると思うけどいつもお母さんはまなみの味方だからね。」と言ってくれました。その言葉のおかげでいつのまにかおなかがいたくなることもなくなり学校も楽しくなりました。

わたしにとってお母さんは大切な存在です。



## 当たり前

広島市立三篠小学校 赤井 小都

私は少しおこりっぽくて、お母さんにおこられるといつも言い返してしまいます。その時はイライラしていても、後になるとひどい事を言ったんじゃないかと不安になります。

四年のある日の夜、私と弟が母と口ろんになったとき、母が家から飛び出しました。ドキッとしました。もし帰って来なかったらどうしよう。もしもう一生会えなかったら、もし、もし…その日の夜は、もしもの事を考えてしまい、不安でいっぱいでした。父が、「大丈夫。帰ってくるけん。もうねんさい。」と、はげましてくれました。私は不安な気持ちのまま、その日の夜を過ごしました。

よく日、目を覚ました私はまっ先にリビングへ向かいました。すると母がいつものように朝ごはんの準備をしていました。「おはよう」と、いつものように言ってくれました。私は母に「きのうはごめんさい」と言いました。母はにっこり笑って「うん。」とうなずいてくれました。

この日、私は母や家族がいる事が当たり前ではないと気づきました。これからは、家族と過ごす一秒一秒を大切にしようと思いました。



## ぼくと弟

広島市立中筋小学校 渡邊 晴紀

ぼくには、兄と弟がいます。

弟は、ぼくがようち園の年長の時に生まれました。ずっと弟がほしいと思っていたのでその願いがかなってとてもうれしかったです。弟がお母さんのおなかの中にいる時から家族で名前を考えていました。みんなで色々考えて最後は、「ゆうや」に決めました。

弟が生まれたのは、豆まきをした次の日でした。夜中にお母さんのおなかのいたくなったのでみんなで病院に行きました。でも、ぼくはようち園があったのでお父さんとお兄ちゃんといっしょに帰りました。お母さんがとても心配でした。だから、お母さんと弟が

無事に帰って来てくれて安心しました。弟は、小さくてとてもかわいかったです。

今は、弟もようち園児になってけんかばかりしています。ぼくも、お兄ちゃんになってお兄ちゃんの大変さが少し分かるようになりました。まだ、がまんできずにお兄ちゃんにあまえてしまったり、弟とけんかをしてしまうけど、少しずつぼくがお兄ちゃんにしてみらったみたいに弟が分からない事やできない事があったら教えてあげられるようになります。



## 祖父が作ってくれたテーブル

広島市立可部南小学校 白砂 直士

ぼくの家は、毎年夏になるといとこ達が遊びに来ます。その時に、みんなでバーベキューをしています。小さいいとこ達が楽しみにしているイベントの一つです。

人数も増えて、だんだんテーブルが小さくなったと思っていたら、今回のバーベキューのために、祖父が全員が座れるようにと大きなテーブルを作ってくれました。

テーブルの真ん中にはコンロが設置されていて、自分で焼きながら食べられるようになっていました。目の前でたくさんのお肉や野菜が焼けているのを見て、いとこ達はすごく喜んでいました。ぼくも好きなお肉を座り

ながら自分で焼くことができたのでわくわくしました。久しぶりに会ういとこ達と色々な話をしたり、ふざけ合いながら楽しい時間を過ごせました。

家族と一緒に過ごす時間が楽しくなるように何日もかけて大きなテーブルを作ってくれた祖父が、ぼくはかっこいいと思いました。ぼくも大人になったら、祖父のようにみんなのために行動できるような人になりたいです。



## あいさつの大切さ

広島市立五日市中央小学校 生田 ともみ

わたしは、夏休みにおじいちゃん家に行った。つぎの日のあさ、わたしは、「おはよう」と言わなかった。なぜなら、まえの日にけんかをしてしまったからだ。おじいちゃんは、かなしそうなかおをしていた。それに、わたしも少しかなしくなった。今日のあさは、心がすっきりせず、もやもやな気持ちだった。

今日のお昼、ごはんはおじいちゃんが作ってくれた。おじいちゃんのごはんは、すごくおいしいのだ。お昼ごはんを食べおわったら、お母さんにそうだんを試してみた。「あいさつってされたらうれしい？」とわたしがしつもんする。

「されたら、うれしいよね。」とお母さんがこたえる。「なんでされたらうれしいのだろう」とまたあたまにはてながうかんだ。「明日は、おはようって言おう」と決意した。

つぎの日のあさ、おじいちゃんに、「おはよう。」といった。おじいちゃんは、「おはよう。」とニコニコしていった。自分までうれしくなった。この日、わたしは新しい大切さを覚えた。



## 「いってらっしゃい」

広島市立石内北小学校 山野井 実夏子

私にとって背中をおしてくれるそんなである言葉が一つあります。それは家族が毎日言ってくれる「いってらっしゃい」という言葉です。私と弟が学校に行くとき、習い事に行くとき、いろいろなときに私の背中をおしてくれる心強い言葉です。

私がまだ、ようち園に通っていたときに、(どうしよう、今日はスイミングのテストだったな…)と心配してスイミングスクールに行くと、お父さんが車のまどを開けて、「いってらっしゃーい。」と小さく手をふってくれました。そして(うん、がんばらなきゃ)

という気持ちが私の心に芽生えました。

私は、家族のみんなが応えんしてくれるからこそ、元気に、「いってきまーす。」と大きな声で言うことができます。けれど、次は私の番です。お母さんが出かけるとき、弟が習い事に行くとき、お父さんが仕事に行くときも、私が、「いってらっしゃい。」と言ってあげるのです。そうすることで家族にいつものお礼の気持ちをとどけることができたらうれしいです。



## 新しい家族

広島市立牛田新町小学校 佐々木 唯斗

ぼくには、弟が2人います。一番下の弟は去年の八月に生まれました。

ぼくは、弟が生まれてすこしとまどいました。どうしてかと言うと、今まで家族4人でくらしていてもう一人家族がふえるのが想像できなかったからです。

赤ちゃんがいる生活はいろいろかわりました。例えば物をゆかにおけなくなったり、ねているときは大声を出せなかったり、がまんをすることもふえました。でもそれは、弟のために家族みんな協力することが大切だと思います。

弟は一才になり、よく動きまわるようにな

りました。最近はずこし歩けるようになり、ぼくたちはけがをさせないようにみまもっています。

最初はとまどいもあったけど、今ではいるのがあたりまえで家族の一いんです。

ぼくと弟は10才はなれているので、お母さんやお父さんが大変なときは、ぼくが力になれるようにがんばりたいです。

これからの弟の成長がとっても楽しみです。



## 東京で気付いたこと

広島市立神崎小学校 田本 葵

わたしの父は四月から東京で単身赴任をしています。十月にそうなることを父から初めて聞いたとき、わたしは、想像もしていなかったので大変おどろきました。最初はお別れ会をしようや、東京へ遊びに行けるなど考えていましたが、引っ越しが近づき、荷物のダンボールが増えていくごとに悲しくなりました。すごく仲良しかった父がいきなり遠い東京へ行ってしまうからです。

三月末に父が引っ越し、広島の家は母と兄の三人になりました。父が広島にいた間は、仕事で帰りがおそかったので、しばらくはふだんと同じ感じでした。でも、わたしが大好

きな「ちびまる子ちゃん」を読んでいたとき、まるちゃんの家族がみんないっしょにいるシーンを読んで、さみしさを感じました。

そして夏休みになり、母と兄とで東京へ行きました。東京では、家族全員そろって、ディズニーランドや上野動物園などに行き楽しい時間を過ごしました。やはり家族ははなれるより、いっしょにいたほうが楽しいし、思い出が増えると思いました。

父は来年度末に、広島に帰ると聞いているので、それまでの間、母と兄と協力し、広島の家を守っていきたいです。



## じーじとぼく

広島市立庚午小学校 中村 健太郎

じーじは、子供が二人います。ひとりはぼくのお母さんで、ひとりはぼくのおばさんです。じーじは、男の子がほしかったので、ぼくが生まれた時、とてもよろこんだそうです。赤ちゃんのころはいつもだっこして子守をしていて、歩けるようになると、公園に虫とりに行ったり、旭山神社に散歩に行ったり、いろいろな所に連れていっていたそうです。ぼくが電車にはまると、一日中踏切で電車を見ていたり、広島駅に入ったり、山口県に蒸気機関車を見に行ったりしていたそうです。ぼくが二才のころの記憶で、二人で旭山神社に行った時、帰りの電車で、じーじの顔を見

ると、黒いサングラスの片方がはずれていることに気づきました。ぼくが、「メガネ1こはずれとるよ。」

と言うと、初めて気づいて、大笑いしたことが二才のころのことだけど、とても記憶に残っています。

今、ぼくが一番好きな将棋のルールを教えてくれたのもじーじです。最近は二人で出かける事は少なくなったけど、将棋や習いごとを送って行ってきて、やりたいことを応えんしてくれます。じーじの夢の、ぼくと一緒にお酒が飲める日まで長生きしてほしいです。



## 忘れられない家族の言葉

広島市立毘沙門台小学校 森山 玲

私のお母さんは、よく「家族はチーム」と言います。どういう時に言うかというとお母さんが仕事から帰ってきてへやがちらかっていると、ため息をついて「家族はチーム」と言ってみんなでかたづけます。これが忘れられない言葉になった理由は、自分の習い事のことです。

自分は、サッカーをしているので、ユニフォーム代やボール代などたくさんのお金が必要です。でも、そのお金をお父さんとお母さんは全て払ってくれました。そして、まわりのレベルもだんだん上がってきました。でも、あまり本調子が出ない時が続きました。

そして、サッカーの練習も試合もあまり楽しいと心から思えませんでした。その時、お母さんが私に、

「何のためにサッカーをしているの。」

ときいてきました。でも、自分は何も答えることができませんでした。すると、またお母さんが、

「家族はチームということのをわすれたんだったら、もうサッカーをやめなさい。」

と言われました。私は、それがくやしくてたまりませんでした。そこで、家族は支え合うことが大切だと初めて分かりました。



## はなれていても

広島市立緑井小学校 平本 天音

私のおじいちゃんは、物知りです。  
夏休み、おじいちゃんと一緒に旅行に行ったときの事です。私は熱中症対策としてスポーツドリンクや帽子、冷感スプレーなどを持っていました。しかし、おじいちゃんは霧吹きを持ってきていました。霧吹きで体をぬらし、気化熱で体を冷やすためだそうです。実際、霧吹きで体をぬらすのが一番涼しかったです。そのほか、植物の名前もたくさん知っているし、なぜ雷はゴロゴロ鳴るのかも教えてくれました。質問したら、何でも答えてくれます。けれどもおじいちゃんは、おじいちゃん自身のことはあまり教えてくれません。

そんなおじいちゃんは一人で暮らしています。なぜなら、おばあちゃんは、私が産まれるずっと前に病気で亡くなったからです。私が「さびしくないの。」と聞いてみたら、おじいちゃんは、「さびしいよ。」とっていました。

なので私は、おじいちゃんになるべくさびしくないように、おじいちゃんが家に来たときに、たくさん話したり遊んだりしています。私達とおじいちゃんは、はなれて暮らしているけれど、おじいちゃんは、私達の大切な家族です。



## 新しい弟

広島市立大町小学校 杉浦 貫介

令和5年八月一六日に新しい弟ができた。ぼくのたんじょう日と日にちは同じだ。夜に弟は生まれたからぼくは、ねていた。夏休み中に生まれたから弟と母さんがいる病いんに行って、弟を見た、とてもかわいくて、ほっぺがぶにぶにしてきもちがとてもよかった。5日間たったから、母さんと弟が帰ってきた。その日に、弟はみんなにいじられまくった。母さんに弟をだっこしてもいいかときいた、いいよと母さんが言ってくれたから、弟をだっこした。母さんと弟が帰ってきて10日後ぐらいに学校が始まった。学校では、夏休みに何があったかみんな話していた。ぼく

は、新しい弟ができたといった。そしたらみんながかわいいのってきいてきたから、かわいいよって答えた。そして帰ったら弟のほっぺをぶにぶにして元気をもらった。ねているときは、泣き声で起こされて二度ねを毎日している。今日の朝もほっぺをいじって、めがさめた。学校に行く前には、だっこをしている。家のとなりは、電車が通っている。その電車が通ると、弟は、目と口をあけたままかたまっておどろくその顔に、ぼくはいつも笑っている。弟がはやく大きくなっていっしょに遊びたいなと思っている。



## 家族みんなで過ごす時間

広島市立石内北小学校 菅 ななみ

わたしの家族は五人家族で、みんなとても仲が良いです。父は力持ちで、勉強にはきびしい。母はやさしいけれど、ちょっとおこりっぽい。二人の妹は、二人ともわがまま。よく母とけんかしてしまいます。そんなわたしの家族ですが、学校ある平日には、家族全員で過ごす時間が少ししかありません。なので、休みの日は、とてもきちょうな日なのです。夏休みの朝。いつもは父も母も朝食を食べていないのですが、この日は父も母もいっしょに朝食を食べました。そして、最近あった出来事を話し合いました。みんなで行った映画館のことなどの思い出なども話しました。ふ

だんなかなかこんなことはありません。とても楽しくて、日々のつかれがとれた気がしました。この日わたしはとても良い気分です。過ごすことができました。朝食の時間だけ家族で話ただけだけれど、とても力が出ました。家族みんなで過ごす時間は、とても大切な時間なんだと思いました。今は、コロナも五類になり、友達と遊ぶという人も多いと思います。しかし、ぜひ家族との時間も、つくってほしいと思います。わたしは、家族との時間をできるだけ多くつくり、その時間を大切にしたいと思います。



## 私のおばあちゃん

広島市立三篠小学校 山下 紗彩

ある日、わたしのおばあちゃんが病気になりました。わたしは、悲しくてしかたがありませんでした。数日後におばあちゃんの病気を調べてもらいました。そして、手術をするために、入院することになりました。

入院すると聞いた時、わたしは、さみしいような、悲しいような複雑な気持ちになりました。

わたしは、できるだけたくさんの手紙をおばあちゃんに書きました。それは、おばあちゃんに少しでも元気になってほしいと思ったからです。何日か手紙を書いていたら、おばあちゃんから手紙がとどきました。その手紙に

は、  
「お手紙ありがとう。早くみんなごはん食べたいね。ガンバルからね。」  
と、書いてありました。わたしは、この短い文章をがんばって書いてくれたと思うと、とてもうれしかったです。

おばあちゃんの手術日にわたしは、学校にいる間も手術が成功したかどうかとても心配でした。いそいで家に帰って結果を聞きました。手術は成功したそうです。わたしはとってもうれしかったです。おばあちゃんが帰って来たらわたしは、おばあちゃんのことを手助けしようと思いました。



## お母さんありがとう

広島市立宇品東小学校 貞本 一花

私は、いやなことをためてしまっていたとき、お母さんは、気づいて、ハグをしてくれました。その時お母さんは、  
「すきなだけ泣きな、母ちゃんが受けとめたる。」

と言ってくれました。そしたら私は、たまっていたことがなみだとなって、ごうきゅうしてしまいました。いつもは、少しもやもやしたような感じだったけどその日は、すごくきもちよくねむれて、私は、お母さんってすごい。お母さんもつかれているはずなのに。お母さん大好き大好きと思いながらねました。それから私は、ためこまないようにして、何

かあったら必ず一番にお母さんに伝えるようにしています。お母さんっていい。お母さんはいつもいろんなことに気づいてくれる。お母さんはいつもよりそってくれる。その日から私は毎日のように感しゃを伝えるようになりました。私もしょう来お母さんみたいに、やさしくて、色んな変化にも気づける、やさしくて、強い人になりたいです。あらためてお母さんありがとう。





## ぼくに感謝、家族に感謝

広島市立口田東小学校 松井 志成

ぼくは、生まれる前十万人に一人というめずらしい病気になりました。おなかの中で死んでしまうかもと言われていました。その時、お母さんは、ぼくの命を守るために一生けん命治りょうを受けて、助けて下さいと神様に祈っていたそうです。

日本でもあまりされていない手術(妊婦さんから胎児にむけての手術)をぼくは受けました。おなかの中でぼくが動くから、何度も失敗したので、やっと成功した時、お母さんは大泣きして喜んだそうです。

ぼくは今、きせきの体が治り、元気に生きています。友達がたくさんできて、あたり

前のように学校に行き、時々お母さんとけんかをすることもあります。でもお母さんは、あの時のつらかった気持ちを一時も忘れたことがないと言います。だからよく、「志成が生きてるのはきせきなんだよ。元気でいてくれてありがとう。」

と、感謝してくれます。

ぼくは、その時のことを全く覚えていないけれど、ぼくはたくさんの人に助けられて、家族に守られて今を生きているんだと思います。ぼくも家族やみんなに感謝したいです。



## 厳しい言葉は愛の裏返し

広島市立緑井小学校 進元 真由美

「いつまで出しっぱなしにしてるんや。はよかたづけて。」

私が出した物をかたづけないと、母におこられる。私は、別にいいじゃんと思う。でも、母の言うことを聞くと、後になって、やっぱりやって良かったと思うから、私はしぶしぶかたづける。

父もまたうるさい。特に食事中だ。いつも、おわんを持ち上げて食べなさいとか、好ききらいせず食べなさいなどを言われる。私は、食事中ぐらい自由にさせてよと思う。でも父は、大人になったら自分はずかしい思いをすることになると言う。それはいやだと思い、

私はしかたなくしだがう。そしてまた忘れておこられる。

私は、親に注意されるのが苦手だ。イライラするからだ。でも、よその家の子になりたいとは思わない。なぜなら、母にギュッとだきしめてもらったり、父に頭をなでてもらうときは、心がポカポカして時間がゆっくりと流れ、ずっとそうしてほしい気持ちになるからだ。だから、私は二人のことが大好きだ。

これからもおこられることもあるけれど、どれだけおこられても、すぐに笑顔の花がさく家族を大切にしていきたいと思う。



## 弟のために

広島市立安東小学校 國元 愛生

ある日ねていると救急車の音がした。とても近くに止まってしばらくするとお父さんが弟の体調が悪くて救急車で病院へ行くと話しかけてきた。

夜中だったからびっくりして心配でねられなかった。朝になり、学校にいてもずっと弟のことが心配で学校がおわって私は、走りながら家にかえると、病院にいる弟は、ちりょうするため、しばらく入院することになった。

弟とお母さんは、一緒に入院することになり、お父さん、お姉ちゃん、私、弟で協力して、せんたくやごはんを作ることをがんばった。病院には、入れなかったけど、テレビ電話を

したり、病院の外から手をふって弟にエールを送りました。

そして、一週間後に、やっと弟とお母さんが退院することができた。かえてきた弟の顔を見ていると、元気になってくれてよかったなと安心して、とてもうれしかったです。その後にはしばらく弟をだっこしました。

このけいけんをして、家族みんなでいられるだけでどんなに幸せなのかが分かったし、これからは家族みんなが元気にくらす生活をおくっていききたいと思いました。



## 私からのかんしゃ

広島市立石内北小学校 佐々木 さくら

私はたんじょう日に言ってもらった事があります。それは、「産れて来てくれてありがとう」です。その時、私の心にささりました。なぜかという私は自分のたんじょう日の日は、やったー〇才だーというかんじだったのにおかあさんはプラスでうまれてきてくれてありがとうと、言っている所が心にささってそんけいできるなと思いました。他にも私のやってみたい事がある時に、私がやってもいいかなとなやんでいる時せなかをおしてくれるのはいつも家族でした。なのに私は今までおてつだいや、かたづけ、おれいを言っていない事に気づきました。私

は、道徳などでもお礼はした方がいいやかんしゃの気持ちをもつ色々な事をしていたし、あたりまえだと思っていました。けれどこれを書きながら自分をふりかえてみると、かんしゃの気持ちや言葉がすくないなと思いました。そこで夏休み前日に校長先生が言っていた、ありがとうの夏休みをしてみようと思いました。お母さんは会社でもはたらいているし、おうちでもはたらいています。お父さんもそうです。なので私は、ありがとうの夏休みプラスもう少しかんしゃの気持ちを一日に一回は言えるようになりたいです。それは夏休みが終わってもつづけていきたいです！



## 生まれてきてくれてありがとう

広島市立祇園小学校 林 奏奈

私には、十一月の弟がいます。お母さんのおなかにいる時から、ずっと話しかけてきました。

生まれてすぐは、ねてばかりでした。その内、家族の顔も分かるようになり、ちょっとずつ声もでるようになりました。

最近は、おすわりして遊んだり、何かをもって立てるようになって日に日に成長してると思います。

朝起きたら、笑いながら家族一人一人の上に乗って、赤ちゃん語で話しかけてきます。そのおかげで、みんな早起きです。

家族みんなで弟の世話をしています。私の

役目は、お風呂につれていって、あげて、服を着せることです。妹二人の役目は、リ乳食をあげることです。毎日大変です。

気づんの悪い時は、お母さんでないとダメなことがあります。でも、あやすと声をだしてよろこびます。

お父さんに怒られると、泣いたり、机の下にもぐったり、顔をかくしたりして、かわいいです。

生まれてきてくれて、「ありがとう。」  
と言いたいです。



## 日常生活で思う家族のありがたみ

広島市立春日野小学校 長濱 佐奈

私は、末っ子なので、いつも家族に見守られています。お父さんは、私が勉強が分からず困っている時、分かるようになるまでいねいに教えてくれます。お父さんが教えてくれると、いつも分かるようになります。お母さんは、私のためにいっぱい体験学習を探してくれます。お母さんが探してくれた体験学習は面白いことばかりです。二人ともお仕事が大変なのに、私のために時間を使ってくれて、とてもありがたいです。

お兄ちゃんとお姉ちゃんは、いつもいつも一しょに遊んでくれます。お兄ちゃんとお姉ちゃんと遊ぶときは、友達とはちがう楽しさ

があります。お兄ちゃんは、すごくふざけて私をいっぱい笑わせてくれます。モノマネを一しょにして、いつも大笑いしています。お姉ちゃんは、一しょに歌を歌ったり、絵をかいたりして、お兄ちゃんとはちがう楽しさがあります。そんな二人が大好きです。

日常生活で何げなくしてもらっていることをふり返ったら、私はとても幸せだと思います。この幸せは、当たり前のように当たり前じゃないから、ありがたいと思いました。私はそんな家族が大好きです。これからも感しゃの気持ちを持って過ごしていきたいです。



## ねいねと私

広島市立皆実小学校 田川 佳奈

私の姉は中学二年生だ。姉が小学生の時に私のことを書いた家族のきずなエッセイがぐくに入れられ、かざってある。私への思いが書かれてあり、うれしい気持ちと負けられない気持ちになる。姉は、私のことをうらやましいと書いていたけど、私も姉のことがうらやましい。私の写真より姉の方がはるかに多いし、私のとなりには必ず姉がうつっている。姉は一人だけの写真がたくさんあるのに。でも姉がとなりにいないのは、さみしい。るす番する時も姉がいると心強い。

姉は中学生になってずい分変わった。まず背がのびお母さんをこえた。時々「ママ」と

言ってしまう。お父さんのひざも取り合わない。競う相手がいないと、お父さんのひざの価値がへる。でもこわいテレビが見られない所は変わっていない。

私が中学生になったら姉は高校生だ。この三年はどうにもならないけど、私は姉をこえたい。姉のすごい所は、一度やると決めたことはできるまであきらめない所だ。私は「もうやだ」とあきらめてしまうから、すごいなあて思っている。本人には、はずかしくて言えないけど、私はねいねが大好き。



## 大切な笑顔

広島市立翠町小学校 平田 千花

私のお父さんは医者だ。命を守る医者だ。お父さんは夜に帰ってくるといつも笑顔で、「ただいま」と言う。仕事で疲れてソファで寝てる時もある。私が朝起きてテーブルを見たらお父さんの分だけごはんがなくなっている。お父さんがいなかったらさみしいけど、いつも休みの日・帰ってくる日は、ふざけて、遊んでくれる。

ある日、そんなお父さんをイヤな態度でさげたりした。でもお父さんはおこらず「そっか、ごめんね。」とやさしい声をかけてくれた。いつも忙しくて疲れているのと思ってしまう。だけど勇気を出して私も「ごめんね。」と言っ

てみた。そしたらお父さんはいつもの百倍の笑顔でなにか返事をしているかのように返してくれた。私はうれしかった。

その感覚は今でも覚えている。そして、人生でうれしいことはたくさんあるけど一番はなんだろうと考えた。それは…

「人を喜ばせること」

私はあの日からお父さんの笑顔を見たら、自分までうれしくなってくる。人を笑顔にしたいと思う気持ちはすごく大切なことで意外とむずかしいのかもしれない。

「お父さんの笑顔はそんな力がある」



## 笑顔のパン

広島市立五日市観音西小学校 森川 正子

「今日は、パンを作ろうかな。」わたしは、思いました。家族に言うとみんな顔をかがやかしてよろこんでくれました。よろこんだ顔を見ると、絶対においしくパンを作るぞという気持ちになりました。

さっそくパンを作り始めました。時々、お母さんや、お姉ちゃんお父さんが見に来てくれて、「楽しみにしてるよ。」

と言ってくれました。その時、わたしはパンの生地をこねていて、たくさん生地をこねると、パンがおいしくなると聞いたのでたくさんこねました。パンを焼くと、ふっくらと焼

き上がり、その様子はおいしくできたかなと思うわたしの気持ちのようでした。あら熱を取ると、家族に、「パン完成したよ。」

と言いました。さっそくパンを食べました。みんな、

「おいしい!! また作ってね。」

と言ってくれてすごくうれしかったです。

パンを食べる事で、みんな笑顔になってくれました。ふつうのパンなのが、みんな笑顔になる「笑顔のパン」になりました。「笑顔のパン」は家族が笑顔になれるパンでした。



## 心の中では生きている

広島市立山本小学校 地造 奈南

私は小学校一年生時、毎週木曜日には必ずおじいちゃんとおばあちゃんが車で向かえに来てくれていました。それは、たったの3週間ほど。四月二十六日、習い事から帰っていると中、お母さんのけい帯に電話がかかってきました。お母さんは電話に出ると、とっさに家に帰り、すぐに私と弟をおろしました。気付くと車はありませんでした。私は全然、状況を読むことができませんでした。次の朝私はすぐにお母さんの部屋に行きましたが、お母さんはいませんでした。けれど一階に降りるとお母さんはいましたが、何だかとても悲しそうな顔でした。まずは学校に行こうと

思っていたのでお母さんに髪を結んでもらっているとお母さんは急に私に、「おじいちゃんが死んじゃった。」と泣きながら言いました。私は最初、何言ってるの。と思いましたが、急に涙が出てきました。数ヶ月後、私はまだおじいちゃんのことと立ち直れていませんでした。その日は木曜日、おばあちゃんの車が見えました。おじいちゃんもういませんでしたが、私の心の中では、いつもいつも、おじいちゃんはおばあちゃんの隣、助手席にいました。死んじやっただとしても私の心の中では生きています。



## おじいちゃんとの思い出

広島市立東野小学校 阿波 涼大

「七回きってなに。」  
先日おじいちゃんの七回きがありました。おじいちゃんはぼくが四さいの時に亡くなりました。おじいちゃんとの思い出はいっしょに中工場の所の公園でつりをしたことといっしょに遊んだことです。

つりはおじいちゃんのしゅみでぼくのお父さんも子どもころおじいちゃんから教えてもらい、今はおじいちゃんのさおを使っています。ぼくも小さいころつりの楽しさを教えてもらい、今もお父さんとつりをしています。

七回きは天国にいるおじいちゃんがぼくのところまできていっしょにお話する日よと、

お母さんが教えてくれました。おじいちゃんが亡くなった時とっても悲しくてたくさん泣きました。保育園の帰り道よくお母さんと、「あの雲魚に見えるね」「おじいちゃんがつりしとるんじゃろ」と、話していました。おじいちゃんともう会えないのは悲しいけど、つりをしているとおじいちゃんがそばにいてくれるような不思議な気持ちになるのでおじいちゃんのことを思いだしながら楽しみたいと思います。



## お母さんが必ず言うこと

広島市立彩が丘小学校 岸本 かな

私がお母さんにおこられた時、私が悲しい気持ちになった時に、お母さんは必ず、こう言います。「強い心と優しい心」です。人がいじめられていた時、強い心を持ってその子を助けてみました。とてもこわかったけど、いじめられていた子に「助けてくれてありがとう！」と言われて、とても達成感がわいてきました。先生にも、「あなたのおかげで、いじめをしていた子達ももういじめをしなくなったよ」と言ってくれました。私の中で、私のおかげで、と言う言葉が勇気を出させてくれました。次に、「優しい心」です。人が困った時に、一早く、その人の所に行って、「大

丈夫ですか？」と言うことができる人は優しい心を持っている人だよと言われていました。行動できる人も優しい心を持っているよと言われてました。プールに行った時小さな女の子がお母さんとはぐれてしまいました。女の子は泣いていて、女の子に、「お母さんってどういう水着着てた？」と言いました。黒い水着と言ったので、がんばって見ていたら、いたので、お母さんの所まで、女の子を連れて行きました。それを見た女の子のお母さんは、「ありがとうね、お姉ちゃん」と言われ、女の子にも「ありがとう」と言われました。これからもがんばります。



## 脳梗塞になったひいおじいちゃん

広島市立大州小学校 道士井 敬幸

ひいおじいちゃんがトイレから部屋にもどる時に、歩けなくなってしまいました。

みんなでかたをもってベッドにねかせました。すると、ひいおじいちゃんが「右手と右足が動かしくいいな。」と言いました。するとお母さんが「脳梗塞じゃない？救急車をよばないと。」と言っておじいちゃんをよびに行きました。

かけつけたおじいちゃんが一一九番に電話しました。ふだんはひいおじいちゃんとあまり話さないのに、病歴や飲んでる薬のことを的確に伝えているおじいちゃんを見て、ひいおじいちゃんのことを本当はよく知ってい

ただとおどろきました。すぐに救急車が来てひいおじいちゃんをのせて病院へ行きました。病院で治りょうして十日間入院し、後いしょうもなく退院して帰って来ました。

家族が協力し合ったから、ひいおじいちゃんは助かることができました。もし、ひいおじいちゃんが一人でくらしていたら、救急に電話するのがおくれて、後いしょうが残っていたかもしれません。よくけんかをする家族ですが、いざとなったら、みんなで協力し合える自まんの家族です。これからも、家族みんなで元気にすごしたいです。



## ぼくと兄

広島市立三篠小学校 久保井 隆介

ぼくには、五さい上の高校生の兄がいます。兄は小さいころ、弟がほしいと、お母さんに言っていたそうです。そして、兄の願いがかない、ぼくが生まれました。そして、兄はぼくの事を大切にしてくれています。特に、覚えている思い出は、一緒にゲームをしている時に、わざと負けて、ぼくに勝たせてくれた事です。その時のぼくは、勝ててうれしかったです。でも、今思い返してみると、わざと負けてくれていた事に気がつきました。その時の兄はやさしかったです。

それから成長したぼくと兄は、本気でゲームをしています。ぼくは負けずぎらいなので、

負けると、「もう一回、もう一回。」と言っています。すると兄は、「いいよ。」と言ってゲームをしてくれます。今では、わざと負けてくれる事はないけれど、何度も付き合ってくれる兄はやさしいです。これからは、自分の力で勝って兄が、歯をくいしばって、「もう一回、もう一回。」と、くやしがるすがたが見たいです。



## 大切な弟

広島市立口田小学校 齊藤 明愛

この前、水遊びをしてかぜをひいてしまった。しかも弟とけんかをしてしまった。でも弟がお母さんから、私がかぜをひいたと聞いた後、すぐに心配してくれた。お母さんは、おかゆやりんご、氷を持ってきてくれる。お父さんは仕事に行く前に、「大じょうぶ?」と聞いてくれた。弟は何回も、「大じょうぶ?何か持ってこようか?」と聞いてくれる。わたしがのどがかわいたと言うとすぐに弟が、「はいどうぞ」とお茶を持ってきてくれる。とってもうれし

くなった。でも一つだけ不思議に思う事がある。それは、なぜけんか中なのにわたしを心配してくれるのかだ。わたしは気になって弟に聞いてみた。すると、「あたりまえじゃん」と言ってくれた。わたしはさらにうれしくなった。この時、わたしは弟を何があっても大切にしようと思った。



## 交かん日記

広島市立石内北小学校 谷口 彩乃

私は、お父さんと交かん日記をしています。なぜなら、お父さんは、単身赴任で、2週間に1回の休日に帰って来ます。その間に、今日あった出来事やおもしろかったことなどを書いています。例えば、休日にお父さんといっしょにキャッチボールをしたことなど書きます。お父さんと、キャッチボールをするのは、楽しいです!! やってる時に、「いいね!!」などと言われると、うれしい気持ちになります。文字の中で会話する、交かん日記です。日記の中では、他にも伝え方があります。それが、「絵」です。絵で伝えるのも、おもしろいです。楽しいと伝えたいときは、楽しそう

な絵。おもしろかったと伝えたいときは、おもしろい絵を書きます。最近、この絵で書く交かん日記が楽しくてよくやっています。最後に、なぜ交かん日記をしているかという、最初は、かるいノリで交かん日記やってみよう!! と言って始まったものですが、今では、やって良かったなと思います。そして、これからも、私とお父さんの交かん日記が続いていけばなと思います。そして、これを見て、みなさんも、家族と交かん日記をやってみてください。案外、楽しいかも、しれませんがね♪



## 大きくなったら

広島市立広瀬小学校 倉迫 咲有

わたしの家は宝石店をしています。お父さんとお母さんとおじいちゃんとおばあちゃんの家族みんなで働いています。学校がお休みの日もお店があるので、わたしもついて行って、お店の奥で宿題をしたり、工作をして遊んでいます。時々、窓やショーケースを磨いたり、パンフレットを作るお手伝いもします。

ある日、お客さんが来ていたので、「こんにちは。」とあいさつをしたら、「大きな声であいさつができてえらいね。」とお客さんがほめてくれました。そして、きれいなアメジストの石と、かわいいお花のも

ようなシェルカメオをくれました。「どうしてわたしにくれたのかなあ。」とおばあちゃんに聞いたら、「さゆちゃんが気持ちのいいあいさつをしてくれたから、うれしかったんだって。」とにっこり笑って教えてくれました。わたしもうれしい気持ちになりました。

お休みの日に家族みんなで出かけに行ったりはなかなかできないけど、お店で働いているお父さんやお母さんを見ているのも楽しいです。わたしも大きくなったら、みんなといっしょにお店で働きたいなと思います。

## 参加学校名

広島県モラロジー協議会が行いました「家族のきずな」エッセイ募集事業の目的にご賛同いただいた72校から、4884名のご応募をいただきました。

広島市立白島小学校  
広島市立基町小学校  
広島市立広瀬小学校  
広島市立本川小学校  
広島市立神崎小学校  
広島市立舟入小学校  
広島市立江波小学校

広島市立戸坂小学校  
広島市立戸坂城山小学校  
広島市立中山小学校  
広島市立牛田新町小学校  
広島市立早稲田小学校  
広島市立矢賀小学校

広島市立荒神町小学校  
広島市立大州小学校  
広島市立青崎小学校  
広島市立段原小学校  
広島市立比治山小学校  
広島市立皆実小学校  
広島市立翠町小学校  
広島市立大河小学校  
広島市立仁保小学校  
広島市立楠那小学校  
広島市立宇品東小学校  
広島市立向洋新町小学校

広島市立三篠小学校  
広島市立観音小学校  
広島市立己斐東小学校  
広島市立古田小学校  
広島市立庚午小学校  
広島市立草津小学校  
広島市立井口明神小学校  
広島市立高須小学校

広島市立緑井小学校  
広島市立中筋小学校  
広島市立古市小学校  
広島市立大町小学校  
広島市立毘沙門台小学校  
広島市立安東小学校  
広島市立安北小学校  
広島市立安西小学校  
広島市立祇園小学校  
広島市立山本小学校  
広島市立長束小学校  
広島市立戸山小学校  
広島市立伴東小学校  
広島市立東野小学校  
広島市立春日野小学校

広島市立口田東小学校  
広島市立口田小学校  
広島市立三入小学校  
広島市立可部小学校  
広島市立可部南小学校  
広島市立亀山小学校  
広島市立日浦小学校

広島市立中野東小学校  
広島市立中野小学校  
広島市立船越小学校  
広島市立矢野西小学校  
広島市立矢野小学校  
広島市立みどり坂小学校

広島市立石内小学校  
広島市立河内小学校  
広島市立八幡小学校  
広島市立五日市観音西小学校  
広島市立五日市中央小学校  
広島市立五日市小学校  
広島市立五日市南小学校  
広島市立楽々園小学校  
広島市立彩が丘小学校  
広島市立石内北小学校  
学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校

## 道徳で人と社会を幸せに

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

### 「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。



### 「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。



### 「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。



### モラロジー(道徳科学)とは

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

### 公益財団法人モラロジー道徳教育財団

公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と「心の生涯学習」を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年に法学博士・廣池千九郎が創立、以来一貫して人間性・道徳性を育てる研究事業、社会教育事業、社会教育活動事業、出版事業、助成事業を展開しています。

広島県モラロジー協議会は、

公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体です。  
よりよい社会づくりに貢献することを目的とした生涯学習活動を行っています。



## 企業協賛社

※50音順

IIS協同組合  
アクト中食株式会社  
株式会社あじかん  
井辻食産株式会社  
扇屋塗料株式会社  
有限会社大方塗装  
株式会社兼正冷熱工業  
カヤ工業株式会社  
有限会社カワブ管財  
観音不動産株式会社  
共栄金属工業株式会社  
京橋ユニオン  
株式会社金融財務研究所  
株式会社サニクリーン中国  
株式会社さんびる  
ジャトー株式会社 中国営業所  
株式会社橘運送店  
中国倉庫運輸株式会社  
有限会社ハーティ・フーズ  
株式会社原本木材店  
株式会社ピーアンドピー  
広島食肉市場株式会社  
広島陸送株式会社  
福留ハム株式会社  
有限会社藤岡保険コンサルタント  
株式会社文華堂  
株式会社前田屋  
有限会社ミヤヤス  
株式会社山貴  
山元勇治税理士事務所  
  
広島東モラロジー事務所  
広島中央モラロジー事務所  
広島西部モラロジー事務所  
広島安佐モラロジー事務所  
広島鯉城モラロジー事務所

## 個人協賛者

※50音順

石田 直  
和泉 尚美  
岩部 通夫  
宇恵 一恵  
大田 英樹  
大坪 房江  
大野 宏子  
沖本 勝則  
沖本 弘至  
鎌田 淳平  
賀谷 興典  
賀谷 勝義  
賀谷 誠一  
賀谷 千文  
川本 通  
川本 松夫  
久保 忠  
栗原 良子  
古城 隆男  
古城 保男  
小山 幸子  
小山 知苗  
小山 勉  
佐伯 光弘  
酒井 秀樹  
櫻井 喜治  
笹口 薫  
笹長 久恵  
鋤田 晋二  
須山 健司  
高野 正明  
高森 瑠美子  
竹本 祥士  
橘 義昭  
田中 八代子  
田能 公敏  
  
鉄村 禮子  
飛子 和義  
富田 逸司  
中川 斎  
中川 喜直  
中島 章  
中島 修治  
中村 光子  
二井矢 香予  
畑 和宏  
畑下 義雄  
馬場 伸之  
濱田 典雅  
濱本 郁子  
林 和代  
原本 勝幸  
福原 治彦  
福原 康彦  
藤田 和広  
藤田 恭子  
部谷 佳子  
星野 勉  
松井 洋之  
松岡 かずえ  
松岡 與吉  
三戸 雄二  
宮本 伊知郎  
宮本 美佐代  
宮本 善州  
森原 敏行  
森原 ミルエ  
森山 和子  
藪本 タツエ  
山本 悦子  
吉清 皓一